

指導教員名	青山 将己
-------	-------

活動区分	イベント支援・運営型	連携先	学校(教育機関)
			イベント団体

～ マスターズ甲子園 大会プロモーション推進事業 ～

活動の様子



第1回運営委員会にて自己紹介



運営委員会での様子



開会式



活動の様子②

企画・活動概要

本プロジェクトでは「マスターズ甲子園」に参画し、運営委員として大会の企画・運営及び、プロモーション推進活動を行った。具体的には、大会公式X(旧Twitter)アカウントを本ゼミで受託し、インフルエンサー効果(フォロワー数、インプレッション)の最大化に向けた戦略の検討、ならびに効果検証を実施した。



閉会式

取り組む課題

- ・2023年11月11日、12日に開催される「マスターズ甲子園」の大会運営
- ・大会公式Xの定期更新
- ・Instagram班との連携

経緯・背景・目的

「マスターズ甲子園」は、全国の高校野球OB/OGが、性別、世代、甲子園出場・非出場、元プロ・アマチュア等のキャリアの壁を超えて出身校別に同窓会チームを結成し、全員共通の憧れであり野球の原点でもあった『甲子園球場』で白球を追いかける夢の舞台を目指そうとする大会である。マスターズ甲子園では、FacebookとInstagram、X(旧Twitter)を運用しているが、大会参加者の年齢層が高いためSNSの運用に課題を抱えている。本プロジェクトでは大会公式X(旧Twitter)アカウントを運用し、インフルエンサー効果の最大化に向けた戦略を検討することを目的とした。



活動の様子①

本学(学生)の役割

学生たちは大会運営委員として、神戸大学で毎週火曜日(10月以降)に開催された運営委員会に参加。大会の準備・企画段階からスタッフとして大会に参画した。また、同時並行で、大会公式Xを運用した。定期的にマスターズ甲子園大会事務局とのミーティングを実施し、インフルエンサー効果(フォロワー数、インプレッション)の最大化に向けた戦略の検討を行った。



閉会式終了後

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

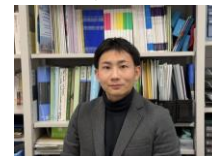
運営委員会では、他大学学生(約50人)とコミュニケーションを図り、大会に向けた準備を2ヶ月間行いました。大会当日には、選手の誘導や開・閉会式の運営、グッズ販売などを担当。スポーツイベント運営の現場を肌で感じる2日間となりました。また、スポーツイベントにおけるメディアマーケティングの重要性や、公式SNSを運用することに対する責任を強く感じた様子でした。



スタッフ・ボランティア

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
講師
青山 将己(アオヤマ マサキ)

<専門・担当科目等>
【スポーツプロモーション】
スポーツビジネス論、スポーツ組織論、
健康サービス企画運営演習

<関係者・企業等>



マスターズ甲子園
実行委員長
長ヶ原 誠(チョウガハラ マコト)